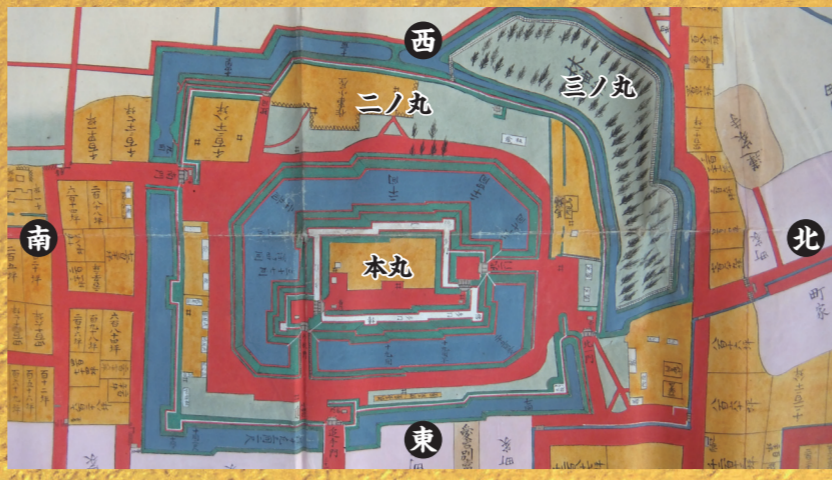


# 棚倉城とお殿様

国指定史跡

## ●棚倉城古地図

(「慶応二年奥州棚倉之図」 棚倉町教育委員会蔵)



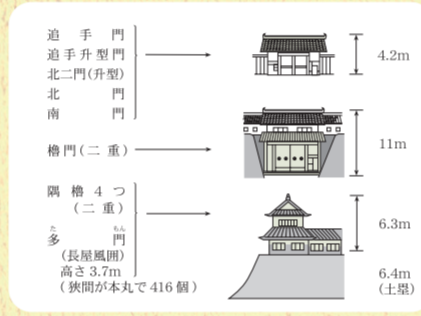
## ●棚倉城の築城

棚倉城は、市街地の中心に位置し本丸跡は『亀ヶ城公園』として、町民の憩いの場として利用されている。元和8年(1623)に赤館城主となった丹羽長重は、寛永2年(1625)、この地に鎮座していた近津明神(現在の馬場都々古別神社)を遷して、その境内地に棚倉城を築城した。城名は、城の壁が荒土のままであったので「荒土城」、近津明神の跡地に築城したので「近津城」とも呼ばれた。完成した城下には水戸街道が通り、関東と東北の境目にある城として、親藩(徳川家の親戚)や譜代(古くから徳川家に仕える)の大名が治める城下町であった。

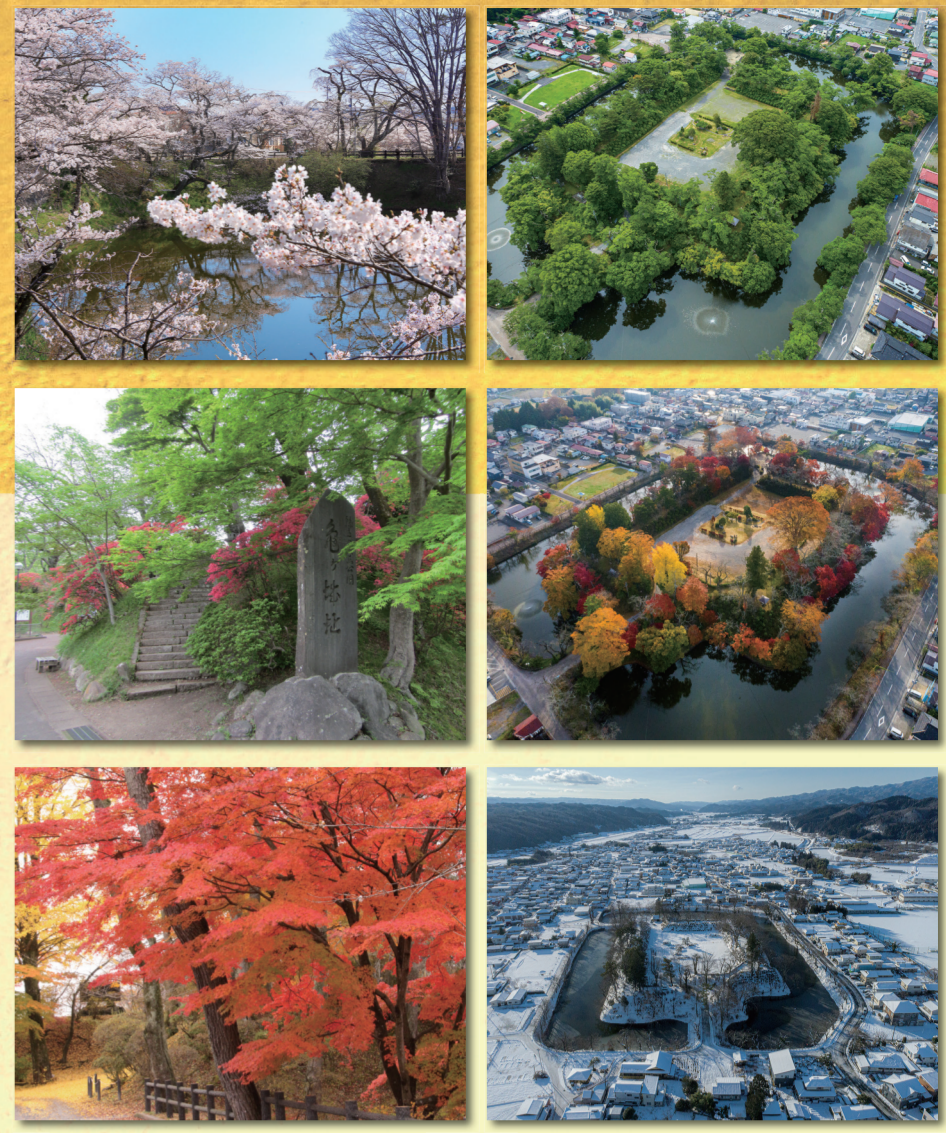
## ●棚倉城の特徴

本丸は西向き凸形の、本丸を取り巻く東西南北が二の丸で長方形を呈していた。北西に三の丸があり林郭と呼ばれた。本丸平場を囲むように大きな土塁が築かれ、その土塁上には全周する多門櫓(長屋のような建物)と隅櫓(二階建て四箇所)が建てられていた。二の丸西面の土塁上には約160mにわたって石垣が築かれていた。

## ●棚倉城 城門と建物のイメージ



## ●棚倉城跡の四季



## ●アクセス

**お車で**

東京から 約3時間	東北自動車道	白河IC	R289	40分	棚倉町
浦和IC	180km				
三郷IC	常磐自動車道	那珂IC	R118	90分	棚倉町
94.5km					
仙台から 約2時間30分	東北自動車道	矢吹IC	常道44号線	40分	棚倉町
仙台宮城IC	150km				
福島空港から 約45分	R118			30km	棚倉町

**公共交通機関で**

東京から (新幹線+路線バス)	JR/C関東	棚倉町
東京から 85分	新白河駅	45分 1車
水戸から (JR水戸線)	JR水戸線	120分 2車
水戸駅		
那珂山から (JR水戸線)	JR水戸線	60分 2車
那珂山駅		

※1~2時間:1本程度運行

無料駐車場あり

町の中心部、棚倉城跡に約100台・大型バス駐車可

●お問合せ  
 棚倉町生涯学習課 0247-33-0111  
 棚倉町観光協会 0247-33-7886



福島県棚倉町

## 棚倉城ができるまで

棚倉城ができる前は、赤館が中心で、伊達氏(宮城県・佐竹氏(茨城県)と白河結城氏などの攻防が続き、最後は佐竹氏が棚倉地方を支配することとなった。徳川氏が天下統一すると佐竹氏は秋田に移され、棚倉地方は、北九州の立花宗茂が初代棚倉藩主となる。

## 初代城主(一六二二~一六二七) 丹羽五郎左衛門長重公

長重は、関ヶ原の役で豊臣方であったため領地を取り上げられたが、慶長8年(一六〇三)常陸国古渡で一万石の大名に復活。同じく江戸崎で二万石。元和8年(一六二二)には、五万石の棚倉藩主となる。寛永元年(一六二四)幕府の命令により、この地にあった近津明神を馬場に移して同二年(一六二六)

## 二代城主(一六二七~一六五五) 内藤豊前守信照公

寛永4年(一六二七)近江(滋賀県)より五万石の棚倉城主となる。寛永6年、京都大徳寺の高僧、玉室宗珣が紫衣事件にかかわって棚倉藩にお預けとなったが、信照は、赤館南麓にあった光徳寺に一つの建物を立てて大切に世話をする。城下町は商品の問屋や荷物を運ぶ馬の駅もできて、経済の中心地として発展する。慶安3年(一六五〇)から承応元年(一六五二)大阪時代という役にもついていたが、寛文5年(一六六五)江戸にて亡くなる。(七十四歳)

## 三代城主(一六五五~一六七四) 内藤豊前守信良公

寛文5年(一六六五)城主となる。同年、愛敬稲荷神社を建て、同十二年、城下の大火で武家屋敷二六戸(北町・南町)・民家三二戸(新町・古町など)が焼けた。(現磐城棚倉駅近くにあった長楽寺付近から出火したといわれている。)延宝二年(一六七四)、城主を退き、元禄7年(一六九四)蓮家寺境内に常念仏堂を建てる。同八年亡くなる。(七十二歳)

## 七代城主(一七四六~一七七〇) 小笠原能登守長恭公

延享三年(一七四六)七歳で遠江国掛川(静岡県)より棚倉城主となる。近江(滋賀県)の二万石と棚倉の四万石で六万石となる。寛延二年(一七四九)戸塚騒動(堀町)があり、堀代官の依頼で棚倉より兵を出す。(堀は幕府領だった。)明和四年(一七七七)佐渡守に名前が変わったが、近江二万石のこともあり、財政は非常に苦しく、藩内の生活は大変なものであった。安永五年(一七七六)亡くなる。(三十七歳)

## 八代城主(一七七〇~一八二二) 小笠原佐渡守長堯公

安永五年(一七七六)十七歳で城主となる。天明四年(一七八四)領地引替えて、堀代官より瀬ヶ野・小爪・強梨・戸中・漆草・大梅・福岡・上手沢・下手沢・北山本・中山本・下山本・上渡井・中野・中塚・川上・川下を引き継ぐ。寛政十年(一七九八)浅川騒動(二揆)を抑え

## 十四代城主(一八六二~一八六四) 松平周防守康泰公

文久二年(一八六二)城主となる。元治元年(一八六四)天狗党鎮圧のため、棚倉と江戸屋敷から兵を出す。その年十六歳で亡くなる。

## 十五代城主(一八六四~一八六六) 松平周防守康英公

元治元年(一八六四)城主となる。慶応元年(一八六五)に老中職を二回勤める。同二年(一八六六)天狗党事件で、常陸に兵を出した功績もあり、二万石加増で八万四千石となる。(天狗党員の処刑も行う。)同年六月、白河城主になるよう命令があったが、同年十月中止となる。

## 四代城主(一六二二~一六二七) 内藤豊前守弑信公

延宝二年(一六七四)に六万五千石で城主となる。同十二年に、本丸土塁上に櫓を造り、朝夕時刻を知らせる。元禄十四年(一七〇一)、宇迦神社の本殿を再建する。同十五年(一七〇二)三十三観音を蓮家寺に寄進(寄付)する。宝永二年(一七〇五)駿河国田中(静岡県)に移る。

## 九代城主(一八二二~一八二七) 小笠原主殿守長昌公

文化九年(一八二二)城主を継ぐ。同年、江戸城の紅葉山火ノ番の役に。同十四年、肥前唐津(佐賀県)城主となる。

## 十代城主(一八二七~一八二〇) 井上河内守正甫公

文化十四年(一八二七)、遠江国浜松(静岡県)より六万石で棚倉城主となったが、病氣といっで、棚倉へは来ることはなかった。棚倉に蛇が多いという伝説はこの頃つくられる。文政三年(一八二〇)城主を退く。

## 十一代城主(一八二〇~一八三六) 井上河内守正春公

阿部家は八代四十三年間白河城主であったが、慶応二年(一八六六)六月十九日、十万石で棚倉城主となる。慶応四年、鎮撫使(新政府軍)の命令で一時出兵したが、奥羽越前藩同盟(東北の各藩と新潟の藩が手を組んで新政府軍に立ち向かう。)に入り白河城を中心に新政府軍と戦い、激しい攻防の末、同盟軍(東北勢)は敗れ、それぞれの藩に帰る。この戦いで棚倉は五十名以上の戦死者を出す。ついで新政府軍は棚倉総攻撃に入り、六月二十四日、棚倉城は落城した。この戊辰戦争で棚倉城と城下の一部を戦火で焼失した。

## 十六代城主(一八六六~一八六八) 阿部美作守正静公

阿部家は八代四十三年間白河城主であったが、慶応二年(一八六六)六月十九日、十万石で棚倉城主となる。慶応四年、鎮撫使(新政府軍)の命令で一時出兵したが、奥羽越前藩同盟(東北の各藩と新潟の藩が手を組んで新政府軍に立ち向かう。)に入り白河城を中心に新政府軍と戦い、激しい攻防の末、同盟軍(東北勢)は敗れ、それぞれの藩に帰る。この戦いで棚倉は五十名以上の戦死者を出す。ついで新政府軍は棚倉総攻撃に入り、六月二十四日、棚倉城は落城した。この戊辰戦争で棚倉城と城下の一部を戦火で焼失した。

## 十三代城主(一八五四~一八六二) 松平周防守康圭公

嘉永七年(一八五四)兄康爵の養子となり城主になる。藩政改革に意を用い「機業(はた織り)」

## 十二代城主(一八三六~一八五四) 松平周防守康爵公

天保七年(一八三六)石見国浜田(島根県)より六万四千石で棚倉城主となる。山本不動尊へ開運祈願の石灯籠を寄進(寄付)する。嘉永七年(一八五四)城主を退き、隠居して弾正少弐と名のる。

## 六代城主(一七二八~一七四六) 松平右近将監武元公

享保十三年(一七二八)上野国館林より五万五千石で棚倉城主となる。延享元年(一七四四)に寺社奉行となり、同四年(一七四七)老中職となる。

## 五代城主(一七〇五~一七二八) 太田備中守資晴公

宝永二年(一七〇五)駿河国田中より五万三千七石余で棚倉城主となる。同四年、花園に日蓮宗高徳山長久寺を建て、棚倉城の南門を移して山門とする。享保八年(一七二三)幕府の奏者番という職につき、同十年、寺社奉行にもなる。十三年、若年寄に進み、上野国館林(群馬県)に移る。この年八槻都々古別神社に大鉄灯籠を寄進(寄付)する。

## 「瓦焼」「梨子園」「こんにやく栽培」「牧場(放牧による)」など奨励した。文久二年(一八六二)に亡くなる。

## 十四代城主(一八六二~一八六四) 松平周防守康泰公

文久二年(一八六二)城主となる。元治元年(一八六四)天狗党鎮圧のため、棚倉と江戸屋敷から兵を出す。その年十六歳で亡くなる。

## 十五代城主(一八六四~一八六六) 松平周防守康英公

元治元年(一八六四)城主となる。慶応元年(一八六五)に老中職を二回勤める。同二年(一八六六)天狗党事件で、常陸に兵を出した功績もあり、二万石加増で八万四千石となる。(天狗党員の処刑も行う。)同年六月、白河城主になるよう命令があったが、同年十月中止となる。